

## すばらしい学芸会

14日と15日には、学芸会がありました。どの学年も、どのクラブもすばらしい演技や発表だったので、私はとても感動しました。今日はそのことをお話します。クラブや鼓笛のこともお話したいのですが、各学年の劇について感じたことをお話します。

まずは1年生。「シンデレラをお手伝い」。とても楽しいお話で、歌がストーリーを盛り上げていました。歌と踊りがよく合っていて、台詞もよく聞き取ることができました。そして、演技も大きく、はっきりしていました。最後の歌「my happy magic」は会場全体が一つになって盛り上がっていました。がんばっている姿に観ているお姉様たちから思わず「かわいい！」と声が上がっていました。

2年生。「おばけの森」を演じました。一人一人台詞が上手で、衣装がそれを引き立てていました。心の優しい人間、小人さんたち、おばけ、それぞれ役になり切っていました。そして、歌も踊りもとっても上手だなと思いました。一生懸命歌っている姿や心をこめて踊っている姿は、観ている人に感動を与えます。強い心を持つことが大切ということ、劇を通して教えてくれました。

3年生。「コスモセーバー」。劇の中には、メロディア星人、ダンシングスター、ピッチスターなど得意技が出てきました。それぞれ自分の個性を生かして、生き生きと演じている姿は、劇を何とか成功させようとする気持ちが伝わってきました。物語は、敵と味方で戦っていましたが、最後は互いに分かり合っ助け合うシーンがあって、クラスの仲間でもそうあってほしいなって私は思います。

4年生。「森は生きている」。マツユキソウを探しに行く少女の不思議な出会いに、観ている人たちは引き込まれました。歌と踊りが舞台いっぱい広がって、心優しい少女を、思わず応援したくなる、そんな舞台でした。森の中で、様々なドラマが繰り広げられました。わがままな女王陛下も、森の動物たちや周りの人たちの優しさに触れて、変わっていく。鬼が心の豊かさに触れるというCMを思い出しました。

5年生。「本当の主演はだれ?」。妹さんたちに楽しんでもらおうとテーマで、自分たちで劇作りをしてきたそうです。「自分たちの力で!」という姿勢が劇の面白さや、みんなのやる気を伝えていたのだと思います。それが、演技や歌、動作に表れていました。劇の中に「おいらがいるから主演が目立つのだ!」という台詞がありました。私たちの生活でもそうですね。いつも自分が主演とは限らない。ある場面では自分がかんばる、ある場面ではかんばっている人を引き立てる。そんな姿が女学館小学校の人たちらしい姿なのかなって思います。

6年生。「SOUND OF MUSIC」。英語劇に挑戦しました。直前まで学級閉鎖もあったのですが、練習の時、いない人の分は先生に言われなくても、自分たちで分担して劇を創り上げたそうです。創るという漢字は「創」を使います。「創」の右側は「りっとう」と言いますが、これは刀を意味します。いろいろな不要なものを刀で切り落として、大事なところだけ残すことを表しているそうです。だから6年生は、たくさん練習して、いろいろ考えて、余った部分をそぎ落として、劇を創ったからいいところだけ残っているのです。歌と言い、演技と言い、英語の発音と言い、さすが6年生でした。

それぞれの学年で、それぞれの劇を創り上げることができました。この経験は、皆さんにとって素晴らしいものであってほしいと願います。